北海道立北見北斗高等学校―同窓会会報誌 Vol.-1

東京とどの実

北海道廳立野付牛中学校
北海道廳立北見中学校
北海道立北見高等学校
北海道立北見北斗高等学校

校歌

一、
オホーツク海の流氷は
欧露の空の雨雲か
北のしずめの北海を
寒風すさみ流る時
満目すべて凍るなり
されど我等の校庭に
千古に青き茂みあり
常盤に茂れる林あり

二、
北見の山の残雪は
満蒙支那の低気圧
我等の庭の茂みより
とどの林の彼方より
昇る朝日に映ゆる時
山も林もはた海も
北のしずめのえぞが島
満目すべて光輝あり

三、
オホーツク海にほど近く
北見の山に囲まれて
高き理想にあこがるる
北見健児の意気をみよ
正義に燃ゆる情熱と
真理に忠なる勇気もて
世界の転機劃すなり
人生の偉業劃すなり

■校歌の由来

本校の校歌は大正十一年、野付牛中学校が仮校舎時代のこと。

たまたま佐藤猪之助校長が上京中で、「校歌を作ろうじゃないか」と相談がまとまり、英語の西田喜一先生が歌詞を書いた。

オホーツク海の流氷は欧露の空の雨雲か
……略

歌詞を見た阿倍忠次郎教頭大いに喜びこれに決めようということになり、自分の出身校の東京高師水泳部の歌の節回しで歌ったところこれがピッタリだった。

校長不在だが理科専門の校長先生の喜びそうな「流氷」とか「雨雲」、「低気圧」という言葉も入っているから良いだろうということで、校歌が歌われるようになった。
(大正十一年五月二十七日制定)
「東京から帰ってみると校歌が決っているので驚きました。……　これが良い校歌か悪い校歌か判らんが……　校歌などというものは慎重に作らなければなりませんネ」との佐藤先生からの言葉から推察すると、この校歌に校長は不満だったろうか。
(四十年誌より阿部先生記)

ごあいさつ

会長　桂　教夫

この会は、戦後の混乱期に野中、北見中学の諸先輩が上野、浅草、新宿で交友を温め、酒を酌み交わし始めたのが始まりと聞いております。

早や半世紀、歴代会長やたくさんのお世話役の方々のご協力で継続は力、力は信、をモットーに継承して参り、たくさんの校友の新しい出会い、語いの場として発展させて参りましたことに深甚の敬意を申し上げます。

五十周年の集いにあたり、寒風すさぶ野付牛、北見の学舎で質実剛健、文武両道の校風で培い、強い絆での友情を改めて深め合う場として節目の年を迎えたことに心からご祝辞を申し上げます。

弘前大学の正面の青春之像に〝修め得し学は浅かりしが、温めし友情は深し〟と刻まれておりますが、私共野中、北見中、北見高校、北見北斗高校の卒業生が七十五年の伝統と歴史を築いて参った先輩、後輩の諸氏が今、正にそれぞれの年代で社会に貢献し、青、老、実年を謳歌しておられると思いますが、ポプラ、とどの樹木に囲まれた学舎を同じくするものが、この絆と青春を語り、出会いの場を育んだ友情を確かめ合い、年代を越えて語らい出会いの場がさらに六十年、七十年、百年と継続して参るため、この節目の五十周年を契機に一層の発展を願うものであります。竹も節が太ければ高く伸びるように。

この会報がますますの交友と親睦の一助となることを願うものであります。

六月五日 平成十一年東京とどの実会行われる

ミニ強行遠足

はじめて企画されました、去年の皇居一周ミニ強行遠足に参加させていただいたことについて少し書いてみます。

北見北斗の強行遠足、少女時代の思い出に浸りながら、歩かせていただき楽しゅうございました。

西小学校での同期の方、更に同級生の方がおられ道々お話しさせていただきながら歩きました。

おかげさまで疲れも忘れ歩き通す事が出来ました事に、主催者の皆様に感謝する気持ちでいっぱいでございます。

各期の動き

十六・十七期の同期会

二十一・二十二期の同期会

写真は昨年秋、新宿「北海道」店における二十一・二十二期同期会の一こまです。

私達は昭和十七年北見中学に入学し終戦直後四年生で卒業した二十一期生と、その翌年五年生で卒業した二十二期生が会い集まって同期会を開催しています。

関東圏に住む会員は現在二十五名ですが、その他に残念ながら物故者が七名おります。

昭和二十一年二十二年卒業と同時に戦後間も無い焼け野原の残る東京に、青雲の志を抱いて上京した人達又その後転勤等で来られた人と様様ですが、それから半世紀一人一人が色々なドラマを演じながら、漸く古来稀なりと言われた古希即ち七十歳に達した事は、誠に感無量な思いが致します。

同期会と称して集まるようになったのは、昭和五十年頃それは人生にもやっと余裕が出来、又そろそろ昔を懐かしむ年頃でした。当初は年一回の集まりでしたが今では友情深まり春秋と二回になりました。今春は一泊で河口湖畔を予定しております。宴の話題は終戦迄の約二年間学業から離れて泊まりこみで働いた農作業或いはイトムカ水銀鉱山等、勤労動員の体験です。今では当時の苦しみが懐かしい思い出となって、和気藹々と杯を酌み交わす事が出来るのも永い年月のせいでしょうか。

そして今、半年後の再会を約束し其のことを楽しみにしている私達二十一・二十二期の同期会であります。

二十七期生の動向

一九五二年に卒業し、早や半世紀が近づいております。

二十七期は正に実年を謳歌しています。

終戦の次年の春北見中学校、女学校に入学。教育改革の学区制と男女共学制で北見北斗高校、北見柏陽高校と別れたが、六年間同じ校舎に通った最後の学生となりました。

卒業以来、節目の十年、二十年、三十年と交友を温めて参りましたが東京では西は下関まで、柏陽高卒業生と一緒に毎年旅行、ゴルフ、昼食会を開催し、すでに誰が、北斗か柏陽か判らないほどの友情を深めたのしんでいます。

二十八期の同期会

あゆみ

大正11年
- 3月16日 北海道庁立野付牛中学校として開校（普通科二学級）初代佐藤猪之助校長着任

大正12年
- 2月12日 兎狩始まる

大正13年
- 10月20日 初めての修学旅行　道南方面へ

大正14年
- 2月28日 雪戦会はじまる

昭和3年
- 4月28日 弁論大会始る

昭和4年
- 6月24日 第一回運動会

東京とどの実会の思い出

設立当時の思い出

昭和二十一年、北見中学四年を終え未だに焼け野原の残る東京に私は進学しました。

昭和二十七年、社会人になっていました

が東京とどの実会が二年前に発足した事を先輩に聞かされ其の年、始めて総会に出席しました。総勢三十人位でした。

其の頃、会は佐々木喬会長（故人一期）沼田二郎副会長（故人八期間）を中心に、お互い慰め助け合いながら小人数小組織の極めて家族的和やかなふれあいでした。

纏め役として熱心だったのは、寿原茂夫さん（浦和在住八期）清水英夫さん（杉並在住十六期）青木峰雄さん（北広島在住十七期）及川正次さん（故人十八期）久保田稔さん（故人二十一期）清水清司さん（杉並在住二十二期）等の方々でした。総会の後、沼田さん（当時ナショナル販売店代表）青木さん（当時丸玉木材東京支店長）に連れられ、復興まもない銀座で飲み歩いた事は忘れられません。又、会の打ち合わせで時々お伺いした洗足の佐々木会長宅でご馳走になった中華料理の味等、田舎者だった私にとって全てが新鮮で強烈な印象でした。

当時とどの実会に集まろうという連帯感は、今と違って何もわからぬ大都会に出てきた違和感が強かったせいではないかと回顧致します。今日とどの実会の飛躍的発展を見るに付け現役員皆様の労に感謝すると共に今日の基礎を築き上げた創生時のバイタリティー溢れた諸先輩の面影も偲ばれる次第です。

二十一期生　後藤　登

2-15 駅前のビルディング昭和１５年頃

2-85北見駅昭和50年

6の033 昭和50年頃

物故者

第一回・二年卒　藤川　廣　平成十一年十二月　没
第十二回・十三年卒　黒沢　英六　平成十一年七月　没
第十二回・十三年卒　前田　宏　平成十二年五月　没
第十四回・十五年卒　辰田　清治　平成十一年八月　没
第二十七回・二十七年卒　坂東　克浩　平成十一年十一月　没
第三十三回・三十三年卒　榎本　香代子（旧姓勢渡）　平成十一年十一月　没
第三十三回・三十三年卒　舟山　隆　平成十一年十一月　没

編集部　後記

"東京とどの実会50周年の集い"準備委員会の第1回会合で記念の会報を出す事に決まり、原稿が集まるかと心配しましたが、第1回目の案内での往復葉書に"思い出"をお願いしました所、多くの方が書いてくださいましたし、また別便でも多くの方より原稿を送ってもらいました。掲載できなかった方は来年以降の会報に載せて行く予定ですのでお赦しください。

また、とどの実会本部担当の北見北斗高校山岸先生にはアルバムを整理された貴重な写真を貸していただいた事、北見市役所北見市民サービスセンターの伊藤悟さんに北見の古い写真を提供していただいた事、感謝いたします。

さて、出来上がりは如何でしょうか？　ご意見をお寄せください、次号からの参考にさせていただきます。

（半ちゃん）

先輩紹介

「近況報告」

（二十二期・滋賀医科大学）　小澤　和恵

故郷を出て、半世紀を過ぎましたが、その間、京都に在住しております。　外科医として歳を重ねていくうちに、手術に明け暮れる毎日で、大学病院と自宅の往復のみで、京都にいてもお寺なども訪ねる余裕は全くありませんでした。

七年前、京都大学を退官し、医科大学で管理職についておりますが、振り返ってみますと、現職のときには患者によるストレスが如何に大きかったか思い知らされております。

この頃になって、中学時代の思い出に浸る機会が多くなり、学問より戦時中の勤労動員（農業、水銀鉱山など）のことで、学友と共に過ごしたことが、非常に懐かしく感じております。

退官した当時、ゴルフもしたこともなく、何の趣味も無いことに、多少後悔することもありましたが、結局、管理職を務めながら、研究三昧に没頭しております。烈士暮年、壮心不已（曹操）の心境です。

「ふるさと雑感」

（二十二期・画家）　黒田　秀方

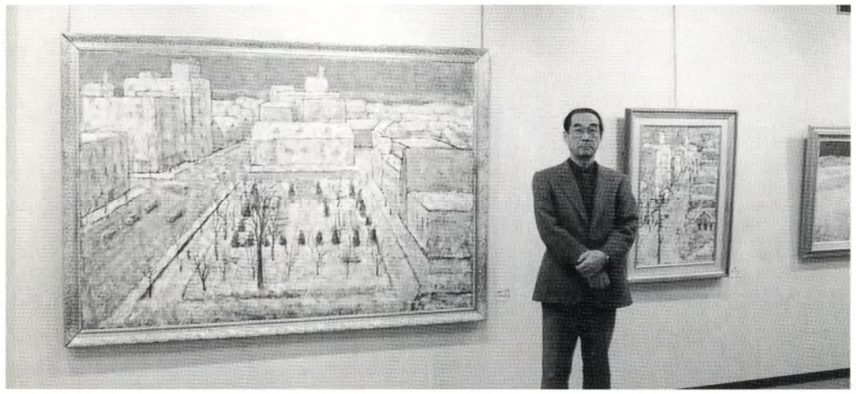
少年の頃描いた作品が三枚あって、今も大切にしている。　学校でかいたものではなくて、かきたい時に写生したものである。

一枚は今は無き我が家を道路側から見て描いたものである。北四条東三丁目、市役所の裏通りである。あとの二枚は、厳寒の一月に雪の中で描いたもので、仁頃通りに近い親戚の家のそばから描いたもの。遠くに昔の女学校が見えている。

旧姓中学時代に出品した道展や全道展の作品を含めて北海道時代の作品はほとんど持ち合わせていない。

この三枚の絵は私にとって貴重なものとなっている。

北見を訪れた時は必ず生家跡に立つ。感慨無量である。



父も画家で川向かいの信善光寺の本堂のランマに今も数点の作品が残されている。

この絵を見るたびに亡き父に会った気がしてならない。

上京してどん底時代を送り、今に至った永い道程は決して楽なものではなかったが、好きな道に進んだことを満足に思っているし、「七十、八十働き盛り」の我が職業に誇りをもって、死ぬ迄現役を貫く痛快感と創造の喜びを味合っている。

昭和36年
- 8月23日　全道一の体育館落成
- 8月　籠球部男子全国大会に初出場

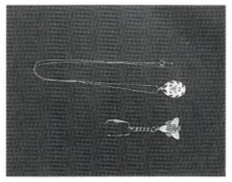
昭和38年
- 1月7日　ラグビー部全国大会で準優勝
- 1月18日　北斗寮廃寮式行われる

昭和40年
- 9月28日　佐藤猪之助初代校長逝去
- 10月1日　新聞部全道高校新聞コンクール初入賞

昭和41年
- 11月　ポプラ並木伐採

昭和43年
- 10月8日　強行遠足で太田千恵子さん三年連続優勝

昭和47年
- 8月　山岳部男子全国大会初出場



東京とどの実会　三十期会の楽しい集い

昭和三十年に卒業してある人は地元で、ある人は東京で労働に、勉学にそして遊興に勤しんでいましたが、昭和三十四年頃に面倒見のよい人達が中心になって在京の同期の人達に声をかけて集まりを催したのが始まりで以来四十数年毎年同期会が続いています。

二十数年前から翌日が祝日となる一月十四日を「同期会の日」と決めて（今年からは必ずしも一月十五日が祝日でなくなり困っていますが）毎年三十名近い善男善女？が集まり美味しい料理と酒に舌鼓を打ちながら、親、子、孫の近況を語り合い、女房、亭主の惚気話を聞かされ、はたまた生活習慣病の名医然として問診、予防法等を熱心に説く者、聞く者、高い月謝をかけて学んだ日本舞踊のお披露目、極めつけは、未だにあきらめきれない往生際の悪い片想いの告白など抱腹絶倒の楽しいひと時に利害関係のない同期の友達のありがたさ、心の支え、明日への生きる勇気そして希望を感じあえる場となっています。　近年は年一回の集まりでは物足りなく、今日は何の打合せ、明日は何の報告と口実を作って一同に会する機会を増やし、更に足腰の確りしているうちに旅行をしようと、有志が紅葉の蓼科、新緑の箱根、初秋の八尾町のおわら風の盆の見物から立山アルペンルート等を訪れ自然や芸術、素朴な伝統に触れて、少年少女時代に北見の山河に遊んだ感動を思い起こしています。

次回も元気で再会をと誓い合い、励まし合っている三十期の若々しい北斗魂の集いはこれからも互いに支えあって心の絆を強めていくことでしょう。

三十七期の同期会

東京とどの実会に三十七期は五十五名入会しています。

医者、経営者、大学教授、サラリーマン、主婦、先生、スナック経営……職業は様々です。　昔は青雲の志を持って上野駅に着いたものです。　今は少し人生に疲れぎみのところもありますが、東京とどの実会、東京北見会の総会で顔を合わせると高校時代に戻ります。　スナック経営者の所で飲み会を開いたり、何名かで花見（隅田川、千鳥ヶ淵…）をしたり、花火をみたりしていますが、今度は温泉へ、年を取らない内にブラジルへ等、話は盛り上がっていますが、残念ながら実現していません。

四十四期の同期会

平成十一年は、我々四十四期にとって卒業三十周年目にあたります。

そこで平成十一年十月二日（土）、第一回目の本州在住者同期会を音楽ビヤプラザライオンで午後五時より行ないました。

お互い変りに変った姿を、高校時代の若かりし頃の写真と見比べ、時間のたつのも忘れるほどのなつかしい時間をすごすことができました。

写真は、その時の集合写真です。

昭和5年
- 5月22日　四年生、五年生樺太へ修学旅行

昭和6年
- 1月10日　寄宿舎北斗寮開設

昭和7年
- 7月21日　第一回東北海道中学競技連盟大会で庭球部優勝
- 11月12日　第一回強行遠足（野付牛から遠軽まで）

昭和10年
- 11月23日　佐藤猪之助初代校長胸像除幕式挙行

昭和16年
- 2月　中ノ沢上常呂等に援農に出かける

昭和17年
- 6月10日　市制施行に伴い北海道庁立北見中学校と改称

昭和18年
- 5月　金属献納運動により初代校長の銅像等を供出
- 戦局が激しく援農、軍事教練がますます多く厳しくなる

思い出

強行遠足

私の強行遠足

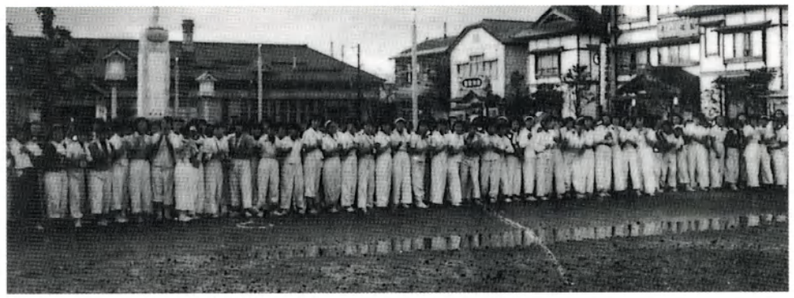
午前四時、男子出発暗やみをついて走ること
七十二キロ、女子六時出発、三十九キロのコース

昭和七年（私の一年生の時）から始められた下湧別までの強行遠足。

その年の雨、みぞれの常紋峠を熊の出没を心配しながら通ったこと、三年生の時の強行遠足で三年B組の五名が最終下湧別にゴールして学校第一位になったことが思い出されます。

円乗　豊

強行遠足コース図



強行遠足の時、お母さん達が道端に真っ赤なりんごを積み上げて渡してくれました。

あの香り、あまずっぱい味、色。　今だに忘れられません。運動の苦手な私ですが、今でも誇りに思います。

千田　芙佐子

強行遠足一年生六位、二年生七位、三年生十八位！

変な書き出しでごめんなさい。

北見駅前広場を朝五時に出発して、上常呂ー勝山ー相ノ内から北見駅前まで40キロメートルを走ったと記憶しています。

履き物は運動靴でしたが、（私の兄、野付牛中学時代は、わらじを二足腰にぶら下げ、おむすびを背に、北見から生田原まで走ったように聞いています）

私の時代は、女子のコース更に履き物も含めて楽になっていたことを今思い出しながら、懐かしく思う次第です。

今、此処にかくのも恥ずかしいのですが、二十七年の六位、二十八年でも十八位、良くも走ったものだとの思いでいっぱいです。

一年生の時は暗闇の中で全く何もわからず不安のままで走り出し、各チェックポイントで順位を記してくれるカードを肩からかけていたのにも関わらずそれが信じられぬまま無我夢中で走ったものでした。ゴールして六位を知りクラス一番の小さな私が、え！ほんとかしら？と友達と手を取り合って喜んだことを今思い出し、寒気がしたような遠い記憶が今も残っています。

四十八年前の思い出を書いてみました。

小川　キミ（旧姓　水津）

文化祭

"インスタントバガボンド"

三年五組の仲間

左から岩崎、村瀬、久保、鈴木、武田、新飯田、金中の順

高校時代の思い出は楽しいことばかりで強行遠足では朝まだ暗いうちに腰におにぎりをしばって三年間参加出来た事や中庭でのフォークダンスではかっこいい男子が近づくと胸がどきどきしたりで楽しい思い出です。

特に一番の思い出は仲の良い友達七人と（文化祭で）何か記念に残る事をしようと云う事になり、皆それぞれに黒のスーツとチョーネクタイを用意して多分当時流行していたと思うのですが"幸福を売る男"と云う有名なシャンソンを歌う事になったのですが、急に決まったので練習なんかぜんぜんできなくて、でも何とかなるだろうと舞台に立ったのはいいのですが、当日客席からテープを沢山投げてもらって会場を盛り上げてもらうはずだったのですが、先生からテープを禁止されてしまって客席はシンとするし練習不足もあって歌詞はメチャクチャで宝塚スターになったつもりがさんざんな文化祭でしたが、私にとってほんとうになつかしい思い出です。

奥田　栄子（旧姓　久保）

楽しかったスクエアダンス

オオ・スザンナの軽快なメロデイーが屋内運動場に流れ、会場は熱気にあふれていた。それは、女子高校から男子高校に生徒が来てスクエアダンスが始まったのだ。

戦争が終わって五年、上級生によるビンタが当たり前であった想い出がまだ消えない校舎に白い運動靴を履いた女生徒がやってきたのだ。これはまさに革命であった。

北見駅前からの中央通りは坂を上りきったところで道は二つに分かれる。まっすぐ三角点方向に行けば北見中学があり、道を右にとれば番場町方面で北見女学校があった。この道は北見中学校の生徒は通っては行けない道であった。私は、終戦の年に札幌から北見中学に転校した。北見で住む家を探していた祖母は番場町に格好の家を見付けたが取りやめた。その理由はその家の前を女学生が通るからというのであった。中学一年であった私は女学生を毎日眺められる幸運から見放されたのである。

スクエアダンスは高校生になった頃、当時の進駐軍の指導で始められた。軽快なリズム、そしてチェンジングパートナーで多くの女性と公然と手を握られたのである。

これが革命でなくてなんであろうか。

新しい時代が始まった。昭和二十五年春、高等学校の男女共学が実施された。北見北斗高等学校三年の我がクラスは十人ほどの女子生徒が入って編成された。なんとなく気恥ずかしく、男子生徒と女子生徒の間でしばし沈黙が続いた。そのうち、女子生徒から小さい声で「水色のワルツ」が流れてきた。何故か其の歌声は今でも耳の底に残っている。男女共学が進むにつれスクエアダンスの熱が冷めていった。それから五十年、まだスクエアダンスを踊れるだろうか、アメリカ映画で見るグランドパパやグランドママの踊るスクエアダンスも悪くないなと我が青春と現在を重ね合わせる今日この頃である。

小山内　清孝

昭和20年
8月15日
終戦
生徒は九月まで
援農に従事
10月
学園が再開される

昭和23年
4月1日
学制改革により
校名を北海道北見高等学校と改称
10月10日
第一回文化祭行われる
11月1日
陸上競技部全国大会に初出場、
四百米で小川君全国優勝

昭和24年
1月1日
ラグビー部全国大会初出場（三位）

昭和25年
4月1日
校名を北海道北見北斗高等学校と改称
4月24日
北斗高校生徒会発足
9月
庭球部女子個人で春木、高田さん
全道優勝し全国大会へ出場する

昭和26年
9月
庭球部女子団体で全道優勝
体操部男子全道大会で
優勝

昭和27年
1月7日
ラグビー部
全国大会で準優勝
10月15日
新校歌制定

昭和28年
1月7日
ラグビー部
全国大会で準優勝

昭和29年
5月24日
三十周年記念
図書館落成
10月16～18日
第五回文化祭行事の
一つとして
スクエアダンス始まる

9月
珠算部全道大会で優勝
この頃、
女子制服が変わる

昭和30年
4月5日
野球部
春の選抜大会甲子園に
初出場
庭球部男子団体で
全道優勝
10月14～16日
第七回文化祭仮装行列始まる

昭和35年
1月9日
ラグビー部
全国大会で準優勝